

参加費無料

農場で活躍する馬の
実例もご紹介
講演会後には
フランスメンバーとの
交流会もご用意！

フランスに学ぶ

動物と人の福祉を追求した 自立型小規模農場経営

2025. **10.25**
14:00-15:40

SAT 岩手大学農学部 5号館 2階
ぽらんホール
〒020-8550 盛岡市上田 3-18-8
(Web同時配信・オンデマンド配信あり)

主催：岩手大学大学院 獣医学研究科 産業動物介在学研究推進事業
一般社団法人 馬搬振興会

共催：岩手大学獣医学部附属動物医学食品安全教育研究センター
岩手大学獣医学部附属産業動物臨床・疾病制御教育研究センター

お申込み・お問合せはこちらから

<申込フォーム>

<https://forms.gle/3igR1rMT52Rrz69QA>

お問い合わせ 岩手大学大学院 獣医学研究科
宮崎珠子
okatama@iwate-u.ac.jp



Web参加申込締切

10月22日（水）まで
対面参加申込締切

10月24日（金）まで

牛は昼夜放牧でのびのびと土地を利用し、
馬が飲み水や牧草を運搬する。

ロバや羊、ヤギといった多様な動物と共に行う
小規模6次産業型の農場経営がフランスにあった！

牛は一年中放牧地で自由に草を食み、授乳しながら子牛を育てる。人は移動式搾乳トレーラーで一日一回のみ搾乳し、牛乳をチーズやヨーグルトに加工して、毎週土曜日にマルシェ（市場）で自ら販売する。フランス西部ブルターニュ地方のギュー農場は、農地24haに、乳牛の成牛12頭、育成雌牛12頭、育成雄牛7頭、羊16頭、山羊5頭、馬4頭、ロバ1頭を飼養している。年間12,000リットルの牛乳のうち、約20%はチーズに、約80%はヨーグルトとグロ・レ(ブルターニュ発酵乳)に加工している。省力経営により牛も人もゆったりしたスローペースとローコストを実現した農場であり、はたらく馬が日常的な役割を担っている農場でもある。農業大国フランスでも大型化機械化の流れが強くなっている潮流の中にながら、小規模農場による6次産業を成立させている。本講演会では、来日している農場主が農場経営の理念や実際の農場の様子について紹介する(フランス語、日本語通訳)。また、馬搬振興会より日本の畜力利用の現状についても具体的事例を交えて紹介する。

13:30～14:00 開場（受付開始）

14:00～14:05 開会

14:05～14:20 日本の畜力利用の現状 一般社団法人 馬搬振興会 岩田和明

14:20～14:30 ギュー農場紹介 林良

14:30～15:15 「自立した農場：生産、チーズ加工、市場での販売」

ギュー農場

エグランティース トウシェ 氏

15:15～15:35 質疑応答

15:35～15:40 閉会

15:50～17:00 交流会（希望者のみ）

